

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	想いをつなぐ竹田の地域コミュニティープロジェクト
事業主体 (連絡先)	山形村 (企画振興課)
事業区分	(1) 地域協同の村づくりの推進 (4) 安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,210,208 円 (うち支援金 : 1,545,000 円)

#### 事業内容

ライフスタイルの変化に伴い、住民同士のコミュニケーションが少なくなったことや、コロナ禍の影響を受け、新たに山形村に越してきた方達が、地域に溶け込みたくても、きっかけがつかみづらい状況にもなった。

そこで、山形村下竹田区のおためし住宅敷地内にある建物をコミュニティハウス「ふらっと」と位置づけ、拠点の整備・活動など、同じ目的を持った協働作業を通して、コミュニケーションを図り、何気ない会話をすることできっかけが生まれ、新たなコミュニティを形成する。



【農業体験イベントの様子】

#### 【目標・ねらい】

- ①村民のコミュニケーションの場となる
- ②新たなコミュニティの形成
- ③拠点の認知

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

活動を通じて初めて会う参加者同士のコミュニティが生まれ、新たなつながりが生まれた。また、一般利用にも開放したことで、子ども食堂の開催など地域の活動拠点としての利用ができた。主催イベント：9回、団体利用：4回、個人利用：22回 (延べ利用人数：280人※利用申込分のみ集計)

おためし宅と同一敷地内であるため、移住希望者と既存村民との交流が生まれ、地域のコミュニティだけではなく、山形村の移住定住促進に効果をもたらした。

#### ※自己評価【 B 】

##### 【理由】

拠点としての周知がさらに進めば、コミュニティの場として更なる発展が望める。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

事業1年目として、拠点の周知に課題があったものの、徐々に浸透を図ることができ、利用者も増加した。今後は、引き続き拠点の周知に力を入れるとともに、移住定住を目的とする「おためし住宅」の敷地内という立地を生かして、移住希望者と村民の交流を図り、コミュニティの形成だけではなく、村外に情報を発信できる場を目指していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある